

昭和の戦争資料～戦意の高揚と従軍写真～

会期：令和8年8月1日(土)～30日(日)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和6年10月31日付けで、本市が寄贈を受けた坂田家資料のうち、着物裏地裂^{きれ}1点、写真4点を初公開します。

裂は、着物裏地として使われていたもので、爆弾(肉弾)三勇士や戦闘風景の意匠、「爆弾三勇士の歌」、「日本陸軍の歌」、「独立守備隊の歌」の歌詞が染め抜かれています。

写真は、日中戦争勃発^{ぼつぱつ}後、中国に派遣された陸軍第18師団に関するもので、昭和12年(1937)から17年(1942)頃に撮影されました。寄贈者の伯父が第18師団に所属していました。

●No.1 着物裏地裂^{きれ}

上段は「爆弾三勇士の歌」、中段は「爆弾三勇士の歌」と「日本陸軍の歌」、下段は「独立守備隊の歌」の歌詞が染め抜かれています。

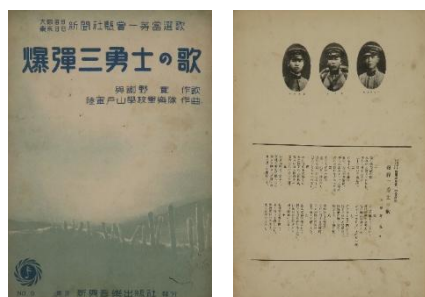


●爆弾三勇士

昭和7年(1932)の上海事変^{シャンハイじへん}で、敵陣^{てつじやうちやう}の鉄条網を破壊するため、点火した破壊筒^{はかいとう}を抱えて突入し、壮烈な戦死を遂げた3人の工兵(江下武二、北川丞、作江伊之助)のことです。彼らの死は、新聞やラジオで大々的に報道され、戦意高揚のためのプロパガンダとして利用されました。

●爆弾三勇士の歌

大阪毎日新聞・東京日日新聞(現在の毎日新聞)によって公募されました。公募の結果、作詞は与謝野寛^{よきのひろし}(与謝野鉄幹^{てつかん}、当時慶應義塾大学教授)の「廟行鎮の敵陣」^{びやうこうちん}、作曲は陸軍戸山学校軍楽隊となり、昭和7年(1932)4月にポリドールレコードから発売されました。



<参考>「爆弾三勇士の歌」楽譜

●独立守備隊の歌

かつて満洲^{まんしやう}(現在の中国東北部)にあった南満洲鉄道の守備にあたった大日本帝国陸軍の「独立守備隊」を讃えるために作られ、昭和4年(1929)に発表されました。作詞は「荒城の月」で知られる土井晩翠^{どいばんすい}が手掛けました。

●日本陸軍の歌

昭和7年(1932)3月10日の陸軍記念日に向けて制作されました。作詞は土井晩翠^{どいばんすい}が手掛けました。

●陸軍第 18 師団

陸軍第 18 師団は、大日本帝国陸軍の師団のひとつで、明治40年(1907)に福岡県久留米市で編成された歩兵部隊です。通称号は「菊兵団」^{きくへいだん}。大正14年(1925)に廃止されましたが、昭和12年(1937)に再編され、中国大陸に派遣されます。

太平洋戦争では、主にビルマ(現ミャンマー)方面の密林における過酷な作戦に従事しました。

●No.2 聯隊砲^{れんたいほう}

昭和 12 年(1937)～17 年(1942)頃

裏にペン書きで「自分等の中隊の聯隊砲です聯隊砲は／山砲と全く同じです久留米の獨立山砲隊^{どくりつさんほうたい}／と云ふのがありますがそれと同じです／歩兵聯隊^{ほへいれんたい}の中に一個中隊あるのです」とあります。



●No.3 門を通る軍隊

昭和 16 年(1941)末～17 年(1942)頃

看板に「打倒英美侵略勢力！」、「日本陸軍之・・・」、「・・・／中華民■■■■」と見えます。

「打倒英美侵略勢力」のスローガンは、日本や汪兆銘^{わうちょうめい}政権の南京で 1941 年末頃から使用されました。英はイギリス、美はアメリカを指します。



●No.4 明孝陵前^{みんこうりょう}にて集合写真

昭和 17 年(1942)3 月

裏にペン書きで「昭和十七年三月明孝陵前にて写／第一内務班 池田雅喜」とあります。

明孝陵は、中国の南京玄武区^{ナンキンぽんぶく}にある紫金山^{しきんざん}の南麓に位置する明の太祖洪武帝朱元璋^{こうぶていしゅげんしゅう}と后妃^{こうひ}の陵墓^{りょうぼ}です。



●No.5 集合写真

昭和 17 年(1942)4 月 24 日

裏にペン書きで「昭和十七年四月二十四日写」とあります。

